

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
平成 28 年度 分担研究報告書  
肝炎ウイルス感染状況と感染後の長期経過に関する研究

岐阜県における肝炎治療医療費助成制度利用からみたウイルス肝炎の治療状況  
および肝炎ウイルス検査や抗ウイルス治療の啓蒙・推進対策

研究協力者 杉原潤一 岐阜県総合医療センター 副院長

### 研究要旨

岐阜県におけるウイルス肝炎治療の実態を把握することを目的として、平成 20 年 4 月から開始されたウイルス肝炎治療医療費助成制度について、平成 28 年 12 月までの岐阜県における B 型肝炎および C 型肝炎患者の利用状況の推移や、患者の背景因子、治療内容などについて調査を継続している。B 型肝炎は核酸アナログ製剤によるウイルス量の制御、C 型肝炎は最新のインターフェロンフリー治療によるウイルス排除により、その治療成績は飛躍的に向上してきている。とくに C 型肝炎に対するインターフェロンフリー治療は、インターフェロンを用いた治療が主体であった時期に比較すると約 3.1 倍のハイペースで治療導入されてきている。従って今後は行政機関や医師会、肝疾患診療拠点病院や肝疾患専門医療機関、各人間ドック・健診施設や医療機関、さらには肝疾患治療コーディネーターなどが連携しながら、肝炎ウイルス検査の推進、肝炎ウイルス陽性者に対する専門医療機関への受診や最新の抗ウイルス治療を勧奨していく対策が重要となってくる。

#### A．研究目的

岐阜県におけるウイルス肝炎治療の実態を把握する目的で、平成 20 年 4 月から開始されたウイルス肝炎治療医療費助成制度について、平成 28 年 12 月までの B 型肝炎および C 型肝炎患者の利用状況の推移や、患者の背景因子、治療内容などについて調査を継続している。ウイルス肝炎に対する抗ウイルス治療の進歩、とくに C 型肝炎ではインターフェロンフリー治療の登場により、その治療成績は飛躍的に向上してきている。従って今後は、行政機関、医師会、肝疾患診療拠点病院や肝疾患専門医療機関、各人間ドック・健診施設や医療機関、さらには肝疾患治療コーディネーターなどが連携しながら、感染を知らずに潜在しているキャリア発見のための肝炎ウイルス検査（受検）の促進、継続的な受診をしないままにいる肝炎ウイルス陽性者の専門医療機関への受診、すでに通院している肝炎ウイルス陽性者に対して最新の抗ウイルス治療（受療）を勧奨していくことを目的とする。

#### B．研究方法

##### 1. 肝炎治療医療費助成制度利用からみたウイルス肝炎の治療状況

平成 20 年 4 月から開始されたウイルス肝炎治療医療費助成制度について、平成 28 年 12 月までの B 型肝炎および C 型肝炎患者の利用状況の推移や、患者の背景因子（年齢、性別、診断名など）、ウイルス側因子、治療内容などについて調査を継続した。

##### 2. 肝炎ウイルス検査や抗ウイルス治療の啓蒙・推進

#### 対策

岐阜県では今までも県民健康セミナー、市民公開講座、肝臓病個別相談会、各医療機関における肝臓病教室、新聞やラジオ放送などで定期的に肝炎ウイルス検査や抗ウイルス治療の必要性を啓蒙してきている。前回の「人間ドック・健診施設における肝炎ウイルス陽性者を対象とした追跡調査」でも、ウイルス肝炎治療に関する最新情報を提供することにより、最新治療に対して意欲が向上した人が約 4 割にのぼっており、今後も引き続き肝炎ウイルス陽性者に対する最新抗ウイルス治療の啓蒙は重要と思われる。一方で、この追跡調査において通院を継続している肝炎ウイルス陽性者が抗ウイルス治療を受けていない理由として、医療従事者から治療を積極的に勧められていない場合がかなりみられたことから、医師をはじめとした医療従事者に対する最新の抗ウイルス治療の情報提供も重要である。とくに C 型肝炎に対する抗ウイルス治療成績は最近飛躍的に向上してきており、平成 28 年も岐阜県、県医師会、肝疾患診療拠点病院（肝疾患診療支援センター）、肝疾患専門医療機関を中心に、一般住民、医師をはじめとした医療従事者に対して多くの啓蒙活動や情報提供を行った。

##### 1) 一般住民に対する肝炎ウイルス検査および受診・受療の啓蒙活動

・肝炎ウイルス検査推奨チラシを調剤薬局やコンビニに配置（岐阜県）

平成 26 年 12 月 部数 29260 部

平成 28 年 3 月 部数 15330 部（店

舗数 1734 店）

- ・「C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療」全国TV放送(平成28年1月)
- ・「C型肝炎最新治療情報」の新聞チラシ配布(平成28年4月)
- ・「肝臓病医療講演会および個別相談会」(平成28年6月)
- ・「C型肝炎受診・受療啓蒙番組」の岐阜県TV放送(平成28年6月~8月)
- ・「C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療」全国TV放送(平成28年9月~)
- ・「ぎふ市民健康まつり」での啓蒙活動、および地元新聞の報道(平成28年11月)
- ・「県民健康セミナー ウイルス肝炎の撲滅を目指して」(平成28年12月)

## 2) 医師に対するウイルス肝炎の病態理解と最新の抗ウイルス治療の情報提供

- ・動く県医「かかりつけ医のためのウイルス肝炎対策マニュアル」(平成27年9月~10月) 5医療圏における講演および県医師会全員に対する「マニュアル」配布
- ・医師を対象とした「ウイルス肝炎講習会」(平成28年1月)
- ・Medical Tribune「C型肝炎座談会」パンフレット送付(平成28年4月)
- ・医療従事者を対象とした「ウイルス肝炎講習会」(平成28年5月)
- ・その他多くの「ウイルス肝炎」に関する研究会や講演会

## 3) 医療従事者に対するウイルス肝炎の病態理解と最新の抗ウイルス治療の情報提供

- ・肝疾患治療コーディネーター養成講習会(平成28年1月、5月)
- ・医療従事者を対象とした「ウイルス肝炎講習会」(平成28年5月)

## 4) 肝疾患治療コーディネーターの養成

- ・肝疾患治療コーディネーター養成講習会(平成28年1月、5月)

## C. 研究結果

### 1. 肝炎治療医療費助成制度の利用からみたウイルス肝炎の治療状況

平成20年4月から28年12月にかけてのインターフェロン治療助成件数は2519件(B型肝炎83件、C型肝炎2436件)であり、21年4月から開始されたC型肝炎に対するペグインターフェロン治療のうち、72週延長治療件数は276件、副作用中断による延長治療件数は49件、さらに22年4月から開始されたC型肝炎に対するペグインターフェロン再治療件数は74件であった。このなかでペグインターフェロン+リバビリン+テラプレビル3剤併用治療件数は217件、ペグインターフェロン+リバビリン+シメプレビル3剤併用治療件数は196件であった。一方22年4月から開始されたB型肝炎に対する核酸アナログ

製剤治療新規助成件数は28年12月までに2168件であり、28年度の新規件数は月平均約19件で推移しており大きな変動はみられていない。

#### 1) B型肝炎に対する抗ウイルス治療

インターフェロン治療(83件)は男性58件、女性25件で、年齢は39歳以下80.7%、40歳以上19.3%であった。また核アナログ製剤治療(2168件)については、男性1366件、女性802件、年齢は39歳以下11.6%、40歳以上88.4%であり、病型は慢性肝炎85.2%、代償性肝硬変症12.3%、非代償性肝硬変症2.5%であった。

#### 2) C型肝炎に対する抗ウイルス治療(インターフェロンフリー治療)

26年9月から可能となったインターフェロンフリー治療は、ダクラタスビル+アスナプレビル併用治療件数(約2年3カ月間)は815件で、性別は男性392件、女性423件、年齢は59歳以下13.4%、60~69歳33.9%、70~79歳41.7%、80歳以上11.0%であり、病型は慢性肝炎80.6%、代償性肝硬変症19.4%であった。また27年6月から開始されたソフォスブビル+リバビリン併用治療の28年12月までの件数は678件で、性別は男性355件、女性323件、年齢は59歳以下31.7%、60~69歳25.2%、70~79歳31.3%、80歳以上11.8%であり、病型は慢性肝炎88.6%、代償性肝硬変症11.4%であった。さらに27年9月から可能となったソフォスブビル+レディパスビル併用治療の28年12月までの件数は702件で、性別は男性303件、女性399件、年齢は59歳以下20.2%、60~69歳31.6%、70~79歳38.0%、80歳以上10.1%であり、病型は慢性肝炎85.2%、代償性肝硬変症14.8%であった。一方、27年12月から開始されたオムビタスビル+パリタプレビル併用治療の28年12月までの件数は218件で、性別は男性107件、女性111件、年齢は59歳以下24.3%、60~69歳29.4%、70~79歳33.0%、80歳以上13.3%であり、病型は慢性肝炎90.8%、代償性肝硬変症9.2%であった。さらに最新の治療法であるオムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン併用治療が11件、エルバスビル+グラゾプレビル併用治療が3件であった。従ってインターフェロンフリー治療(ダクラタスビル+アスナプレビル、ソフォスブビル+リバビリン、ソフォスブビル+レディパスビル、オムビタスビル+パリタプレビル、オムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン、エルバスビル+グラゾプレビル併用治療)の合計件数は2427件で、性別は男性1165件、女性1262件、年齢は59歳以下21.6%、60~69歳30.4%、70~79歳36.8%、80歳以上11.2%であり、病型は慢性肝炎85.2%、代償性肝硬変症14.8%であった。

インターフェロンを用いた治療(インターフェロン単独治療、ペグインターフェロン+リバビリン併用治療、ペグインターフェロン+リバビリン+

Protease inhibitor 3 剤併用治療) が主体であった約 7 年間の総件数は 2436 件であり、月平均約 29 件が治療導入されていたことになる。一方、26 年 9 月から開始されたインターフェロンフリー治療(ダクラタスビル+アスナブレビル、ソフォスブビル+リバビリン、ソフォスブビル+レディパスビル、オムビタスビル+パリタプレビル、オムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン、エルバスビル+グラゾプレビル併用治療)の約 2 年 3 カ月間の総件数は 2427 件で、月平均約 90 件が治療導入されてきており、インターフェロンを用いた治療が主体であった時期に比較すると約 3.1 倍のペースで治療導入されている。とくにセロタイプ 2 型では、インターフェロンを用いた治療(インターフェロン単独治療、ペグインターフェロン+リバビリン併用治療)が主体であった約 7 年間の総件数は 829 件(月平均約 10 件)であったのに対し、インターフェロンフリー治療(ソフォスブビル+リバビリン、オムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン併用治療)の約 1 年 6 カ月間の総件数は 689 件(月平均約 38 件)であり、約 3.8 倍のハイペースで治療が導入されている。

## 2. 肝炎ウイルス検査や抗ウイルス治療の啓蒙・推進対策

### 1) 肝炎ウイルス検査受検者数の年度別推移および見出された肝炎ウイルス陽性者数

岐阜県においては、平成 14 年～18 年にかけて施行された住民検診(節目検診、節目外検診)に

おいて、すでに HBV 感染者 1854 人(陽性率 0.96%)、HCV 感染者 2790 人(陽性率 1.48%)が見出されている。その後継続されている老人保健法・健康増進事業による肝炎ウイルス検査受検者数は、平成 20 年度 10063 人、21 年度 8687 人、22 年度 6378 人、23 年度 11094 人、24 年度 13032 人、25 年度 13463 人、26 年度 12204 人、合計で 74921 人であり、23 年度以降はおおむね増加傾向となっている。この事業により HBV 感染者 515 人(陽性率 0.69%)、HCV 感染者 266 人(陽性率 0.36%)が見出されている。一方、特定感染症事業等による肝炎ウイルス検査受検者数は、22 年度 226 人、23 年度 219 人、24 年度 184 人、25 年度 476 人、26 年度 701 人、27 年度 605 人、28 年度(～9 月)286 人、合計で 2697 人であり、25 年度以降は増加している。これにより HBV 感染者 40 人(陽性率 1.48%)、HCV 感染者 28 人(陽性率 1.04%)が見出されており、その感染陽性率は健康増進事業より高率となっている。これらの検診結果を合計すると、これまでに HBV 感染者が 2409 人、HCV 感染者が 3084 人、合計で 5493 人の肝炎ウイルス陽性者が見出されている。さらに今年度は 11 月 6 日に岐阜市で開催された「第 37 回ぎふ市民健康まつり」(来場者約 16500 人)に、「B 型・C 型肝炎コーナー」を初出展した。肝疾患診療支援センターおよび肝疾患専門医療機関の医師や肝疾患治療コーディネーターがコーナーのポスターでウ

イルス肝炎の説明を行い、また肝炎ウイルス検査の重要性を呼び掛けた。

### 2) 肝炎ウイルス陽性者フォローアップ事業助成件数の推移(岐阜県)

岐阜県においては、平成 26 年 11 月から肝炎ウイルス陽性者等の重症化予防推進事業すなわち初回精密検査費用助成事業と定期検査費用助成事業が開始され、38 市町村で実施されている。

初回精密検査費用助成件数は、平成 26 年度 14 件であったが、27 年度は 30 件と増加傾向となっており、またフォローアップ事業登録者数は平成 28 年 1 月までに 64 人となっている。

### 3) 医師に対するウイルス肝炎の病態理解と最新の抗ウイルス治療の情報提供

平成 27 年に県ウイルス肝炎対策研究部会と県医師会との共同で、「かかりつけ医のためのウイルス肝炎対策マニュアル」を作成した。このマニュアルからのメッセージとしては、潜在肝炎ウイルスキャリアの存在(一生に一度は肝炎ウイルス検査)、C 型肝炎の最新治療は驚くべき進歩を遂げ全治癒時代の到来、肝発癌リスクを踏まえた病診連携である。そして平成 27 年 9 月から 10 月にかけて県医師会が 5 つの 2 次医療圏でそれぞれ開催した「動く県医」において、「かかりつけ医のためのウイルス肝炎対策マニュアル」を配布し説明させていただいた。5 医療圏における「動く県医」参加合計医師数は 1312 名にのぼり、全県医師会員の約半数に達した。「動く県医」に参加できなかった医師に対しては、「かかりつけ医のためのウイルス肝炎対策マニュアル」が送付されている。この後に岐阜県総合医療センター消化器内科における初診患者の内訳をみると、平成 27 年 10 月から 12 月にかけて、かかりつけ医からのウイルス肝炎初診紹介患者数が増加傾向となった。

### 4) 肝疾患治療コーディネーターの養成

岐阜県と肝疾患診療支援センターの共催で、平成 24 年度から年 1～2 回程度「肝疾患治療コーディネーター養成講習会」が開催されている。平成 27 年度までに 264 人のコーディネーターが養成されており、その職種は看護師 45.5%、保健師 28.8%、MSW 8.3%、医療クランク 5.7%の順となっている。今年度は昨年 11 月 6 日に開催された「第 37 回ぎふ市民健康まつり」に、「B 型・C 型肝炎コーナー」を初出展したが、肝疾患診療支援センターおよび肝疾患専門医療機関の肝疾患治療コーディネーターも多数参加し、コーナーのポスターでウイルス肝炎の説明を行い、肝炎ウイルス検査の重要性を呼び掛けた。

## D. 考察

平成 20 年 4 月から 28 年 12 月にかけてのインターフェロン治療助成件数は 2519 件(B 型肝炎 83 件、C

型肝炎 2436 件) また 22 年 4 月から開始された B 型肝炎に対する核酸アナログ製剤治療助成件数は 28 年 12 月までに 2168 件であった。B 型肝炎治療においては、インターフェロン治療は 39 歳以下が 80.7% を占めており、一方核酸アナログ製剤治療は 40 歳以上が 88.4% を占めており、いずれも「治療ガイドライン」に沿って治療されていると思われる。

さらに、C 型肝炎に対して 26 年 9 月から治療が可能となったインターフェロンフリー治療のなかでダクラタスビル+アスナプレビル併用治療の 28 年 12 月までの約 2 年 3 カ月間の件数は 815 件で、70 歳以上の高齢者が半数以上 (52.7%) を占めており、80 歳以上も 11.0% みられた。病型は慢性肝炎 80.6%、代償性肝硬変症 19.4% であった。27 年 6 月から開始されたソフォスブビル+リバビリン併用治療件数は 678 件で、年齢は 70~79 歳 31.3%、80 歳以上 11.8% であり、70 歳以上の高齢者が半数近くを占めている。また 27 年 9 月から可能となったソフォスブビル+レディパスビル併用治療件数は 702 件で、年齢は 70~79 歳 38.0%、80 歳以上 10.1% であり、やはり 70 歳以上の高齢者が約半数を占めている。一方、27 年 12 月から開始されたオムビタスビル+パリタプレビル併用治療件数は 218 件で、年齢は 70~79 歳 33.0%、80 歳以上 13.3% であり、やはり 70 歳以上の高齢者が約半数を占めている。そしてインターフェロンフリー全治療 (ダクラタスビル+アスナプレビル、ソフォスブビル+リバビリン、ソフォスブビル+レディパスビル、オムビタスビル+パリタプレビル、オムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン、エルバスビル+グラゾプレビル併用治療) の合計件数は 2427 件で、年齢は 70~79 歳 36.8%、80 歳以上 11.2% であり、70 歳以上の高齢者が 48.0% と約半数を占めており、また病型では慢性肝炎が約 85%、代償性肝硬変症が約 15% であり、代償性肝硬変症の占める比率も高くなっている。

C 型肝炎に対する抗ウイルス治療については、インターフェロンを用いた治療が主体であった約 7 年間の総件数は 2436 件で、月平均にすると約 29 件が治療導入されていたことになるが、一方 26 年 9 月から開始されたインターフェロンフリー全治療 (ダクラタスビル+アスナプレビル、ソフォスブビル+リバビリン、ソフォスブビル+レディパスビル、オムビタスビル+パリタプレビル、オムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン、エルバスビル+グラゾプレビル併用治療) の約 2 年 3 カ月間の総件数は 2427 件で、月平均約 90 件が導入されており、インターフェロン治療が主体であった時期に比較すると約 3.1 倍のハイペースで治療導入されている。そのなかでもとくにセロタイプ 2 型では、最近まで長い間主たる治療法がペグインターフェロン+リバビリン併用治療のみであったこともあり、インターフェロン治療が主体であった約 7 年間の総件数は 829 件 (月平均約 10 件) であったのに対し、インターフェロンフリー

治療 (ソフォスブビル+リバビリン、オムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン併用治療) の約 1 年 6 カ月間の総件数は 689 件 (月平均約 38 件) であり、約 3.8 倍のハイペースで治療導入されている。

岐阜県では今までも県民健康セミナー、市民公開講座、肝臓病個別相談会、各医療機関での肝臓病教室、新聞やラジオ放送などで定期的に肝炎ウイルス検査や抗ウイルス治療の必要性が啓蒙されてきている。前回の課題であった「人間ドック・健診施設における肝炎ウイルス陽性者を対象とした追跡調査」においても、最新の抗ウイルス治療に消極的ないしよくわからないと回答した陽性者の理由としては肝機能や体調に異常がなく経過観察中である、副作用が心配、担当医に治療判断を任せているなどであり、また調査時におけるウイルス肝炎治療に関する最新情報の提供により最新治療に対して意欲が向上したと回答した人が約 4 割にのぼっていたことから、今後も引き続き肝炎ウイルス陽性者に対する最新抗ウイルス治療の啓蒙を継続していくことは重要と考えられる。一方で、この追跡調査において通院継続している肝炎ウイルス陽性者が抗ウイルス治療を受けていない理由としては、担当医に治療判断を任せているや治療を積極的に勧められていないとの回答がかなりみられており、医師をはじめとした医療従事者に対しても最新の抗ウイルス治療情報を提供していくことも重要であろう。

肝炎ウイルス検査は、平成 14 年~18 年にかけて施行された住民検診 (節目検診、節目外検診) により、岐阜県ではすでに HBV 感染者 1854 人 (陽性率 0.96%)、HCV 感染者 2790 人 (陽性率 1.48%) が見出されている。その後継続されている健康増進事業による肝炎ウイルス検査受検者数は、23 年度以降はおおむね増加傾向で 26 年度までに合計 74921 人に達しており、この事業により HBV 感染者 515 人 (陽性率 0.69%)、HCV 感染者 266 人 (陽性率 0.36%) が見出されている。一方、特定感染症事業等による肝炎ウイルス検査受検者数は、24 年度までは保健所での検査のみのためか年 200 人程度であったが、25 年度は検査が医療機関でも可能となり年 476 人に増加した。その後平成 26 年 12 月に県内の多くの調剤薬局やコンビニに肝炎ウイルス検査推奨チラシを配布したが、26 年度と 27 年度はさらに年 600~700 人に増加した。調剤薬局やコンビニに肝炎ウイルス検査推奨チラシを配布することは、検査件数の増加をめざす上で有効と考えられる。平成 28 年は、3 月に再度県内の多くの調剤薬局やコンビニに肝炎ウイルス検査推奨チラシを配布し、6 月~8 月には「C 型肝炎受診・受療啓蒙番組」が岐阜県内で TV 放送され、さらに 11 月には約 16500 人の来場者があった「第 37 回ぎふ市民健康まつり」に、「B 型・C 型肝炎コーナー」を初出展し、肝疾患診療支援センターおよび肝疾患専門医療機関の医師や肝疾患治療コーディネーターが肝炎ウイルス検査の重要性を呼び掛けた。28 年度は 9 月までの検査件

数は286人であるが、今後の増加が期待される。これまでの検査件数は合計で2697人であり、健康増進事業による肝炎ウイルス検査件数と比較するとはるかに少数ではあるが、HBV感染者40人(陽性率1.48%)、HCV感染者28人(陽性率1.04%)が見出されており、その感染陽性率は健康増進事業における陽性率と比較するとかなり高率となっている。特定感染症事業等による肝炎ウイルス検査の受検者はハイリスクの人が多い可能性があり、肝炎ウイルスキャリアを新たに見出すためには、今後さらに特定感染症事業等による肝炎ウイルス検査受検者数を増やしていくことも重要と思われる。これらの検診結果を合計すると、岐阜県ではこれまでにHBV感染者が2409人、HCV感染者が3084人、合計で5493人の肝炎ウイルス陽性者が見出されている。

岐阜県においては、平成26年11月から肝炎ウイルス陽性者等の重症化予防推進事業すなわち初回精密検査費用助成事業と定期検査費用助成事業が開始され、すでに38市町村で実施されている。初回精密検査費用助成件数は、平成26年度14件であったが、27年度は30件と増加傾向となっており、またフォローアップ事業登録者数も平成28年1月までに64人となっている。しかしながら、このフォローアップ事業は肝炎ウイルス陽性者や医療従事者に十分に周知されているとは言い難く、今後もパンフレットの配布、さらに県民セミナーや市民公開講座、医療従事者に対する講習会などの機会をとらえて情報の提供が必要であろう。

医師に対してウイルス肝炎の病態理解と最新の抗ウイルス治療の情報を提供する目的で、平成27年に県ウイルス肝炎対策研究部会と県医師会との共同で、「かかりつけ医のためのウイルス肝炎対策マニュアル」を作成した。そして平成27年9月から10月にかけて県医師会が県内5つの2次医療圏でそれぞれ開催した「動く県医」において、「かかりつけ医のためのウイルス肝炎対策マニュアル」を配布し説明させていただいた。この「動く県医」に参加した合計医師数は全県医師会員の約半数に達し、また「動く県医」に参加できなかった医師に対しても、「かかりつけ医のためのウイルス肝炎対策マニュアル」が送付されており、県医師会員である医師に対してウイルス肝炎の病態と最新治療の情報を広く提供できたものと考えている。この後の岐阜県総合医療センター消化器内科における初診患者の内訳をみると、平成27年10月から12月にかけて、かかりつけ医からのウイルス肝炎初診紹介患者数が増加傾向となった。今後も引き続き医師に対して、種々の講習会などを通じて最新の治療情報を提供していくことが重要である。

以前に県下42市町村に対して調査を施行した結果では、ほとんどの市町村(34~38市町村)は肝炎ウイルス検診陽性者に対して医療機関への受診を勧奨しており、受診勧奨担当者は保健師が大部分であっ

た。地域の保健師には、住民に対する肝炎ウイルス検診の促進および、肝炎ウイルス陽性者に対する医療機関への受診や最新の抗ウイルス治療受療の推奨などの活動が期待される。岐阜県では、平成24年度から「肝疾患治療コーディネーター養成講習会」が定期的開催されており、平成27年度までに計264人のコーディネーターが養成されているが、職種としては看護師や保健師が多くを占めている。今年度は昨年11月に開催された「第37回ぎふ市民健康まつり」に、「B型・C型肝炎コーナー」が初出展されたが、肝疾患診療支援センターおよび肝疾患専門医療機関の肝疾患治療コーディネーターも多数参加し、コーナーにおいてポスターでウイルス肝炎の説明を行い、また肝炎ウイルス検査の重要性を呼び掛けた。今後も肝疾患治療コーディネーターをさらに養成するとともに、コーディネーターには肝炎ウイルス検査の促進および、肝炎ウイルス陽性者に対する医療機関への受診や最新の抗ウイルス治療受療の推奨などの活動が期待される。また肝疾患治療コーディネーターの現在の活動状況に関するアンケート調査も必要であろう。

#### E. 結論

岐阜県における平成20年4月から28年12月にかけてのインターフェロン治療助成件数は2519件(B型肝炎83件、C型肝炎2436件)であった。また22年4月から助成が開始されたB型肝炎に対する核酸アナログ製剤助成件数は28年12月までに2168件であった。C型肝炎に対して26年9月から可能となったインターフェロンフリー治療(ダクラタスビル+アスナプレビル、ソフォスブビル+リバビリン、ソフォスブビル+レディパスビル、オムビタスビル+パリタプレビル、オムビタスビル+パリタプレビル+リバビリン、エルバスビル+グラゾプレビル併用治療)の28年12月までの約2年3カ月間の助成件数は2427件であり、インターフェロンを用いた治療が主体であった時期と比較すると、月平均にして約3.1倍のハイペースで治療が導入されている。とくにC型肝炎については今後もさらに新たなインターフェロンフリー治療が登場してくる見込みであり、治療患者の背景因子や今後の治療薬剤の変遷を把握するためにも、ウイルス肝炎治療医療費助成制度の利用状況調査を継続していくことは重要と思われる。

岐阜県では今までも県民健康セミナー、市民公開講座、肝臓病個別相談会、各医療機関における肝臓病教室、新聞やラジオ放送などで定期的に肝炎ウイルス検査や抗ウイルス治療の必要性が啓蒙されてきている。とくにC型肝炎についてはインターフェロンフリー治療の登場で治療成績が著しく向上してきており、ウイルス肝炎撲滅のためには肝炎ウイルスに対する抗ウイルス治療の推進が極めて重要である。この抗ウイルス治療の推進のためには、今後も各行政機関や医師会などと連携をとりながら、医師

や肝疾患治療コーディネーターを中心として肝炎ウイルス検査の推奨、肝炎ウイルス陽性者の専門医療機関への受診や、最新の抗ウイルス治療の受療を勧奨していくこと、またすでに県内で開始されている「肝炎ウイルス陽性者に対するフォローアップシステム」の充実および活用が重要である。

#### F．健康危険情報

#### G．研究発表

##### 1．論文発表

##### 2．学会発表

- 1) 第 41 回日本肝臓学会西部会  
2015年12月3日  
ワークショップ「ウイルス肝炎患者の受検・受診率の向上を目指して」  
人間ドック・健診施設における肝炎ウイルス陽性者の治療状況に関する追跡アンケート調査  
杉原潤一、坂宗和明、田中純子
- 2) 第 41 回日本肝臓学会西部会  
2015年12月4日  
C型慢性肝炎に対する Asunaprevir + Daclatasvir 2 剤併用療法の治療成績 - Telaprevir、Simeprevir 3 剤併用療法との比較  
  
杉原潤一、清水省吾、佐藤寛之、市川広直、三田直樹、岩佐悠平、大西雅也、中西孝之、安藤暢洋、岩田圭介、山崎健路、芋瀬基明、天野和雄
- 3) 第 102 回日本消化器病学会総会 2016年4月21日  
C型慢性肝炎に対する Asunaprevir + Daclatasvir 併用療法の治療成績 - 薬剤耐性変異およびウイルス陰性化時期の面から  
杉原潤一、清水省吾、佐藤寛之、市川広直、三田直樹、岩佐悠平、大西雅也、中西孝之、安藤暢洋、岩田圭介、山崎健路、芋瀬基明、天野和雄
- 4) 第 52 回日本肝臓学会総会 2016年5月20日  
C型肝炎に対する Asunaprevir + Daclatasvir 併用療法の治療成績 - 薬剤耐性変異およびウイルス陰性化時期の面から  
杉原潤一、清水省吾、佐藤寛之、市川広直、三田直樹、佐竹智行、大西雅也、中西孝之、永野淳二、安藤暢洋、岩田圭介、山崎健路、芋瀬基明、天野和雄

5) 第 20 回日本肝臓学会大会 (JDDW 2016) 2016年11月4日

C型肝炎に対する Sofosbuvir + Ribavirin 併用療法の治療成績 - ウイルス陰性化時期の面から

杉原潤一、清水省吾、永野淳二、佐藤寛之、市川広直、三田直樹、佐竹智行、大西雅也、中西孝之、安藤暢洋、岩田圭介、山崎健路、芋瀬基明、天野和雄

H．知的財産権の出願・登録状況  
なし

